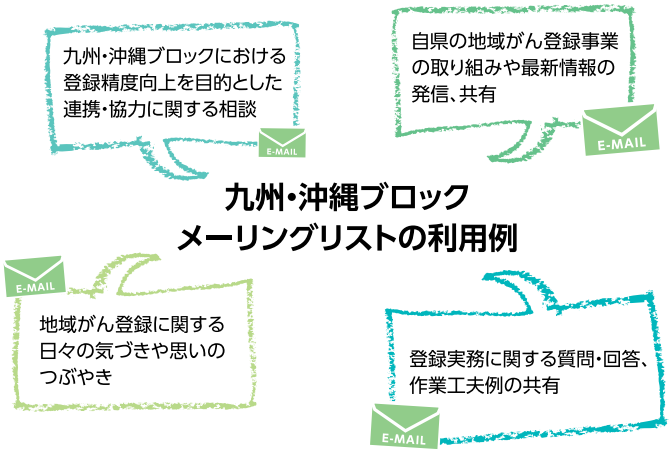
九州・沖縄ブロックメーリングリストの運用

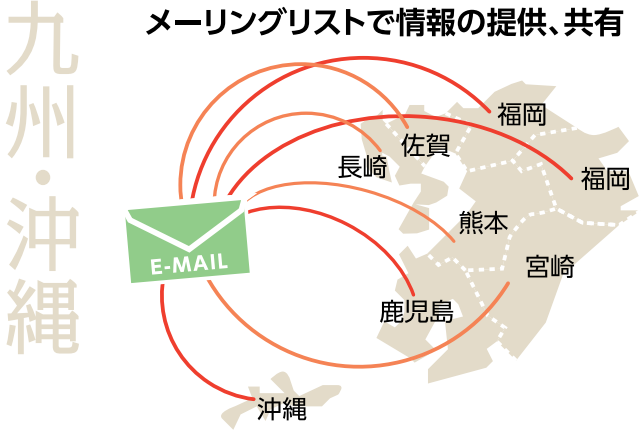
池邉 淑子　平成24年度専門委員／九州・沖縄ブロックメーリングリストコーディネーター
大分県福祉保健部健康対策課

2012年10月18日に、九州・沖縄ブロックメーリングリスト（以下、ML）の運用が開始されました。これは、九州・沖縄ブロック8県の地域がん登録の行政及び実務担当者をネットワークで結び、近隣地域間の地域がん登録情報の共有化と、連絡ツールとしてコミュニケーションの活性化を図ることを目的としています。MLの必要性を感じて運用を提案した立場から、また、MLコーディネーターとして、運用開始に至った背景と経緯を振り返ります。

まず、大分県の状況として、平成23年に地域がん登録を開始したばかりであることや、事業導入までの準備期間が短かったために事前の技術習得が不十分であったことがあり、私自身が「気軽に質問ができる関係の構築」を望んでいました。そのようななかで、国立がん研究センターのご配慮により、当県の集約研修に佐賀県と熊本県の担当者が同席する機会があり、近隣3県での情報交換ができたことから、交流の場の必要性を感じました。しかし、九州・沖縄ブロックは圏域が広く、定期的な交流の場を設定しても、実務担当者の参加率は上がらないと推察されます。そこで、ややインフォーマルな交流ツールとして、九州沖縄地域でのメーリングリストはどうか、と協議会事務局に提案しました。

九州・沖縄ブロックの状況から、先進県と新規参入県の技術格差が大きいこと、事業委託の有無等により担当課の対応に差があること、などから、質問県と回答県に二分されることが懸念され、さらに、国がんのメーリングリストとの棲み分けや、協議会未加入県の取り扱いをどうするか、という課題がありました。明確な解決策はありませんでしたが、試験的運用の意義を議論し、未加入県にもモニター期間を設けることなど、理事会においても前向きな議論や提案がなされ、その後も田中理事長を中心として運用ルールを制定してくださり、運用開始に至りました。





運用開始から12月末までに、事務局からの情報提供も含めて35件のやりとりがありました。この中で、MLの存在をとてもありがたく感じたことを紹介します。11月に大分県地域がん登録室で、初めての集約作業を実施したところ、多くの疑問が発生しました。その中で、血液系腫瘍に関しての疑問を解決できなかったため、さっそくMLを活用して質問を投げかけたところ、複数県の方から、それぞれの立場で回答や助言をいただき、すっきり解決することができました。標準DBSにおける造血器腫瘍のBerg分類の考え方や、別腫瘍とするための詳細情報の必要性など、当該の質問の回答にとどまらず、今後の集約作業において参考となる情報共有ができたと考えています。

また、このやりとりの後に、未加入県の行政担当者を通じて実務担当者の登録希望がありました。ML運用ルールとして、未加入県のモニター期間（運用開始から2013年3月末まで）の設定や、登録対象者以外の希望者に対しての登録ルール（JACR理事・専門委員・正会員・MLコーディネーターからの推薦が必要）の規定があります。そこで、私がMLコーディネーターとして推薦者になり、登録メンバーが増員しました。集約作業に関連した情報交換を見て、ML参加の必要性を感じていただけたのであれば、提案者として嬉しい限りです。

九州・沖縄ブロックでの情報交換の必要性を感じたことからMLを提案して、試験的に開始しましたが、改めて振り返ってみると、提案して良かったと強く感じています。集約作業中に得られた情報もさることながら、MLの活用によって、九州・沖縄ブロック担当者の距離が縮まったような気がしています。まだまだ課題はありますが、今後も、より活発な情報交換を行い、さらによりよい関係性が構築できることを願っています。